



Mathis Orgelbau

スイスのナーフェルスに本拠を構えるマティス・パイプオルガン製作会社は同族企業です。1960年にマンフレード・マティスにより設立され、当時一般的にまだフリーパイプ前面管を備えた電動オルガンが製作されていた時に、機械仕掛け、密閉型本体、各装置の理論的な配置、ならびに適正な風圧測定などのパイプオルガン製作技術の真の価値をすでに再発見することで際立っていました。

マンフレード・マティスの職業上の発展過程は今日までの社風を築き上げています。ジュネーブでパイプオルガン製作技術を習得し、その後特にフランス・ロマン派のリード音栓、弦楽器調律、およびフルートについて重点的に研修を重ね、パリの有名なカヴァイエ・コル・ムュタン社並びにメルクリン社のフランス人調律師モーリス・ウエルバーンおよびポール・ボルタンに師事し、音調技術を専門的に習得しました。

マンフレード・マティスは世界的に活動している二三の工房で『修行時代』を過ごした後、1960年に独立し、まずアルサス・シルバー・メンナー・スタイルで製作を始め、会社が順調に発展するとともに、自社の主流音調を徐々にロマン派に向けてゆきました。

現在この会社は第二世代であるヘルマン・マティスが経営し、高度な職業資格を持った20名の従業員が勤務しています。これは一台のパイプオルガン、ケース、さらに音管すべてをに必要な部品など、エレクトロニクス部品を除いた全構成部品を自社で作上げるために必要な人数です。従って、製作所には製図工、音管製作者、機械工、家具工芸師、室内装飾大工、電気技能者などの専門技能者達が勤務しています。



従業員数 20 名という規模はマティス社の製作工房にとっては上限と見なされます。この規模ならば、パイプオルガンを完成させる全過程は見通し良く的確に把握できるものであり、全従業員は常に全員揃って同じパイプオルガンの製作に携わり、各パイプオルガンそれぞれがコピーではない唯一正統な本物として完成されます。

オルガンの全ての木材部品にはどれもむく材だけが使用されます。高級パイプオルガンに用いるむく材は『自然』乾燥でなければならず、そのサイズにより四年から十二年の乾燥期間を必要とします。このためマティス・パイプオルガン製作会社はヨーロッパにおけるパイプオルガン製作会社の中で最大級の一つである 700 m³ 以上もの精選木材のストックを有しています。年間ほぼ 150 m³ のむく材、特にトウヒ材とオーク材、加えてスズ 並びに鉛 6 トン、及び皮革、鉄、鋼、真鍮など、各種の重要な素材が使用されます。

マティス・パイプオルガン製作会社の確かな製作技術に加えて、オルガンの視覚的、音響的構成力ももちろん非常に重要な意味を成しています。パイプオルガンは設置される空間に建築的にも常に調和が取れ、空間をさらに補うべきものではあっても、決してその空間を支配するものであってはなりません。従ってパイプオルガンの前面管は、それが設置される空間との畏敬に満ちた出会いにおける時間をかけた様々な過程で出来上がって来るものであり、オルガンの音響性能はその空間が持っている音響上の与件によってまた改めて決まるものです。マティス製作会社の調律師達は、自分たち自身オルガン奏者としての活動を兼業し、響きの良い、豊かな上音を持つ、歌うがごとき、しかも硬質でとげとげしいものでなく、際立ってソリスト的であるとともに、音色豊かで躍動感にあふれ、多彩な階調をともなうレジストレーションをもたらす音響を構成するよう努力しています。

マティス・パイプオルガン製作会社 はこれまで世界各国で 350 台を超えるオルガン（様々な規模の教会用、コンサートホール用、家庭用）を新規に製作・完成させると同時に、歴史的に価値のある様々な時代のオルガンをかなりの数にのぼり修復しました。マティス・パイプオルガンが、有名音楽家の数多くのコンサートやラジオ、テレビでの録画・録音、CD 録音などを通して世界的に有名になり、知れ渡るようになったのは、何よりもマティス・パイプオルガンが持つ高度な技術的品质、特に優れた音響上のクオリティーによるところが大きいと言えます。